

実践まとめシート（１年次）

研究グループ	高等部	実践グループメンバー	久保田、石橋、附田
--------	-----	------------	-----------

実践タイトル	
『総合的な探究の時間におけるエージェンシー発揮を目指した指導の在り方』	
I 問題と目的 高等部第２学年の生徒８名は、昨年度、環境整備の一環として学級で育てたコキアを鉢植えし、学校周辺の地域の方々に配る活動を実践した。この活動を通じて、地域の方々の発言や様子から自分たちの取り組みが地域の方々に良い影響を与えたことを知り、充実感や達成感を味わう体験をすることができた。一方で、初めて取り組む学習活動であることや、生徒と地域とのつながり作りの初期段階であったことから、教師先導型の指導が中心となっていた。実際に、生徒たちからは、「先生がコキアを育てて配ろうと言ったからやった」というような発言もあり、生徒主体での活動にするためには授業改善が必要であった。 OECD は、「OECD ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤）」（OECD, 2019）で、今後の社会を生き抜くうえで生徒エージェンシー（以下、エージェンシー）の重要性を示している。エージェンシーとは、「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」と定義され（OECD, 2019）、学習者主体の学習活動の重要性が示されている。そのため、生徒達がエージェンシーを発揮する視点をもって実践をすることで、昨年度の取り組みを学習者主体にアップデートしていくことができると考えられる。 そこで本実践では、生徒が自ら目標を設定し、振り返りながら責任ある行動を取る姿を想定し、その実現に向けた指導方法を検討する。具体的には、地域の方々との直接的なやり取りを通じて、自分たちにできることを考え、実践し、学校と地域を往復する学びのサイクルを組み合わせた学習活動を行う。これにより、生徒が目標を明確に捉え、学びを振り返りながら学習を進める過程で、主体性や前向きに挑戦しようとする意欲を引き出す指導の在り方を探ることを目的とする。この学習を通し、個々の生徒が自分の力を発揮しながら「誰かのために働きたい」、「地域の役に立ちたい」という思いを大切にし、地域の方々と共に成長してほしいと考えている。	
II 実践方法 1 生徒の実態 対象生徒の実態を以下に示す。 ・高等部２年の女子生徒である。 ・幼少期から地元で生活しているが、地域社会に対する関心が低く、自分たちが住む地域にどのように貢献できるかについて、具体的な行動を考えることが難しい。 ・学級内では、友達の意見や行動に同調し、行動を促す働き掛けは教師が行うことが多い。 ・友達に対する思いやりがあり、友達が欠席のときは係の代役を自分から務めるなど、友達の役に立とうとする気持ち強い。 ・話し合い活動においては、後ろ向きな発言をすることがある。 ・コミュニケーション面については、慣れた相手には積極的に話し掛けることができるが、慣れていない場所や人前で発表する活動は緊張や不安を抱きやすく、活動が滞ることがあり、感情のコントロールは教師の支援が必要である。 ・学力は、国語では小学校５年生程度の漢字の読み書きや作文を得意としているが、物語文や説明文の内容理解は難しく、苦手意識がある。数学では小学校３年生程度の繰り上がり繰り下がりのある３桁程度の加法減法の筆算ができるが、乗法除法は教師の支援が必要である。以上のことから、高等部１段階の学習内容を学習している。 ・手先が器用であり、好きな情報をまとめたり、絵を描いたりすることが得意である。 2 実践の手続き （１）総合的な探究の時間において対象生徒がエージェンシーを発揮した姿 本実践での対象生徒がエージェンシーを発揮した姿について、OECD が示す「変化を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」という定義を基に、以下のように検討した。	

- ① 変化を起こすために・・・地域の役に立つために
- ② 自分で目標を設定し・・・自分のできることを考え
- ③ 振り返り・・・地域の方の評価から、自分にできたことを自覚し
- ④ 責任をもって行動する・・・主体的に役割に取り組んだり、改善策やアイデアを提案したりする。

上記をまとめると、対象生徒がエージェンシーを発揮した具体的な姿として、「(1) 自らの提案によって地域に役立つ活動に取り組み、友達とともに行動することができている」状態であり、さらに「(2) 地域の方からの評価を受け、改善点やより良くするための提案を行う」と設定し、総合的な探究の時間における実践構想を行なった。

本実践で生徒が関わる地域の方は、学校周辺に住む地域の方を中心として、市役所職員、図書館の職員にも協力いただいた。生徒が直接交流する機会を設けることで、地域の方からのアドバイスやサポートを得ることができ、生徒たちは自分たちが地域に貢献できることを実感するとともに、活動に対する意欲の高まりをねらって設定した。

昨年度、生徒は学校周辺にある郵便局やクリーニング屋など合計6か所の地域を回ってコキアの鉢を配った。地域の方と触れ合うことで、つながりができたことに対する喜びや地域の方に支えられていることを自覚することができた。今年度は、活動範囲をさらに広めていけるように構想した。

(2) 指導計画

日程	場や人	学習内容
4～6月	学校	コキアの種まき、苗植え、管理を行う。(生活単元学習で実施)
7月12日	地域	校外学習1 市役所に自分たちの活動を説明し、コキアの鉢の設置を依頼。図書館にも置いてもらえるよう交渉する。
夏休み中～	地域	鉢を家庭に持ち帰って管理(生徒) 市役所と図書館に鉢を2つずつ設置(担任)
8月末	学校	学校周辺地域にも配付するコキアの準備(鉢の管理や装飾品の製作など)
9月～10月	地域	コキアの鉢を地域へ渡し、本校創立50周年記念PRの挨拶と管理(水やり等)の依頼をする。
10月 9日	学校	市役所と図書館のコキアが全て枯れてしまったと連絡が入る。
11月11日	学校 (地域の方)	枯れた原因を調べるために、植物の専門家の方を講師に迎え、「コキア相談会」を開催する。11件の質問をし、専門家のアドバイスを資料にまとめる。
11月12日	地域	校外学習2 市役所と図書館に相談会で相談した内容の資料を渡し、協力についてお礼を伝える。
12月 7日	学校	自分たちの活動の結果を振り返り、本校創立50周年記念式典で活動報告の発表をする。
12月12日	地域	学校周辺の鉢を回収し、お礼の挨拶をする。

(3) 総合的な探究の時間における目標

総合的な探究の時間における対象生徒の目標について、エージェンシーを発揮した姿を基に、小・中学校の総合的な学習の時間の資料や高等部の年間指導計画を参考に設定した。

観点	対象生徒の目標
知識・技能	・自分たちが取り組んでいるコキアプロジェクトが地域の環境美化活動につながっていることが分かる。
思考力・判断力・表現力	・コキアプロジェクトについて、自分ができることやアイデアを考え、発表したり、書いたりする。
学びに向かう力、人間性等	・自分の役割に進んで取り組み、仲間と協力して活動を進める。

(4) 授業構成の重点

本実践における、授業構成の重点を以下に示す。

①地域課題に関心をもって取り組める学習場面の設定

⇒プロジェクトのゴールを学級全体で確認することを取り入れた。

① 地域のために役立つことをする ② 本校が創立50周年記念であることをアピールする

「なぜ、この活動をするのか？」について、考える時間を定期的に設けた。

自分たちの活動が、地域の方からどのように評価されたのかを、事後学習で丁寧に振り返りをした。

②丁寧な振り返り

⇒地域の方からの意見やアドバイスを、教師が生徒へ丁寧に伝えるようにした。

⇒自分たちの行動を客観的に捉え、改善点を見出し、更に良くするために何ができるのかを具体的に示した。最初は教師が先導して具体案を挙げるようにした。

③自分らしさを発揮できるような場面作り

⇒集団で活動に取り組む際に、個々の生徒の強みが生かされるような役割を設定した。

人前で発表するのが得意な生徒と、裏方で友達を支える生徒、大きく2つに分かれるようにした。

(5) 検討方法

対象生徒のエージェンシー発揮について検討するために、以下の方法を用いる。

①テキストマイニング

対象生徒の発言を録音して文字化し、テキストマイニングを行った。分析には、計量テキスト分析ツールである KH Coder を用いた。

分析は、2 (1) で示した授業の内、以下の地域と関わる前後の①～④の授業を対象とし、a「対象生徒がエージェンシーを発揮した姿」に関連する語、b「地域資源」に関する語を抽出して分析を行った。

授業日	学習内容	
対象① 7月4日	校外学習1の事前学習	・インタビューする内容の検討、活動報告のスライド作りなどに取り組む。
対象② 7月18日	校外学習1の事後学習	・市役所へ電話で返答する。
対象③ 10月9日	校外学習2の事前学習	・市役所と図書館のコキアが枯れてしまったことを知る。 ・コキアの生育に関する相談会を開催するための話し合いをする。
対象④ 11月13日	校外学習2の事後学習	・市役所と図書館を訪問した際に、学んだことや自分の役割などを振り返る。 ・次年度の活動について自分の考えを整理し、まとめる。

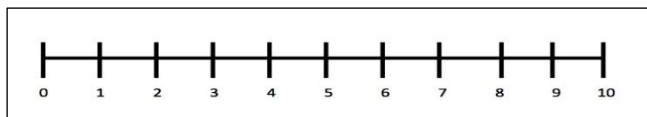
②振り返りシートへの記載内容

生徒が自分の行動を客観的に評価し、感想を記録しておくために1～6の質問項目を設定した。内容については生徒の普段の授業の様子を踏まえ、授業に対する生徒の気持ちの変容を見取るために実践者（T1）と実践グループメンバー（T2）で協議した。また、生徒が自分の学びを振り返りやすいように、学習過程に関する質問や自己評価を促す質問を中心に作成した。授業終了後に振り返りの時間を設定し、記載内容を基に検討した。

【振り返りシート】項目一覧

- 1 自分が今日の授業で、友達の役に立てたと感じましたか？
- 2 あなたは学校周辺の地域や市のことが好きですか？
- 3 自分がもっている力を発揮できたと思いましたか？
- 4 自分がこのプロジェクトに関わり、楽しいと感じましたか？
- 5 自分たちのプロジェクトは、市や学校周辺の地域にどのくらい役に立っていると思いますか？
- 6 自分たちがやっているプロジェクトは市をよくすると思いましたか？
- 7 今日の授業で考えたことや、友達や先生に伝えたいことなど、何かあったら下書きしましょう。
（7は自由記述）

1～6の項目に関しては、下記の1～10段階のうち、自分の気持ちに近い数値に○を付けるようにした。



③対象生徒のエージェンシー発揮に関連するエピソード記録

「地域の役に立つために、自分にできることを考え、地域の方からの評価を聞いて役立てたことを自覚し、主体的に役割に取り組んだり、自分の意見を提案したりする」姿に関連するエピソードを記録し、記録を基に検討した。

3 倫理的配慮

対象生徒が所属する特別支援学校は、在籍児童生徒の学びと成長を保障する他に教育実習や研究の場としての使命も担っており、事前に十分に説明した上で、保護者より研究協力及び成果公開の同意を書面で得ている。また、校内で個人情報の保護をはじめとする倫理的課題について十分に検討した上で本研究の実施と公開にあたっている。

Ⅲ 指導の実際

1 授業の進め方について

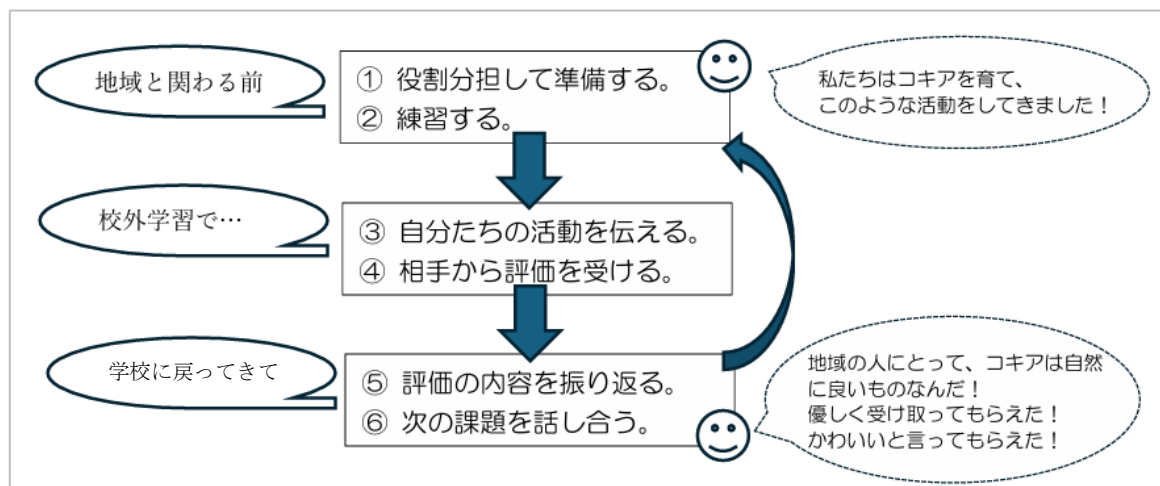
地域課題に関心をもてるように、地域の方と触れ合う機会を設定し学習を進めた。地域に出る前の事前学習では、当日の日程や役割の確認を丁寧に行い、報告やインタビューなど発言場面は全員で練習を行った。

また、生徒が提案したアイデアは、計画をする段階から教師と一緒に考え、行動することで具体化していくようにした。生徒にとって、挑戦すること、まずはやってみることに価値を見出し、次の活動への意欲を高めることができるように指導した。

地域の方々と生徒がやり取りする場面においては、コミュニケーションの取り方や相手に向けて発表する活動に自信をもって取り組めるよう、事前に練習時間を設けるようにした。

地域の方と関わる場面の流れを構築し、校外学習1回目と2回目、相談会、地域へ鉢を届けるときに行った。発表する、資料を作る、スライドを操作する、メモを取るなどの役割については、生徒が選択して決めるようにした。

【地域の方と関わる場面の流れ】



【校外学習1で市役所にインタビューした内容】

【市役所の職員へのインタビュー】※本研究に関わる項目を抜粋

- ・環境課ではどのような仕事をしていますか？ ⇒環境保全、資源循環、廃棄物政策
- ・環境課の目標はありますか？ ⇒ゼロカーボンシティで二酸化炭素の量を減らす。
- ・植物に関する思いを教えてください。⇒ストレスを和らげる。
- ・自分たちの取り組み（環境美化活動）についてどのように感じましたか？
⇒素晴らしいと思った。重要なもの。関わってほしい。
- ・どのようにすれば、もっと多くの人に学校（育てているコキア）を広められるでしょうか？⇒人通りの多い所に置く。ホームページに載せる。

※⇒は、対象生徒がその場でメモしていた言葉。

リーダー役として学級の中心となって活動を進行する生徒を1名配置し、全てのグループに目を配りながら全体が滞りなく進むようにアドバイスをした。その他7名の生徒（対象生徒を含む）は、友達と協力して活動を進めていけるようにグループに分かれて活動することとした。グループ学習の前後は、全体で情報を共有し合ったり話し合ったりする場面や、進捗状況を確認し合う時間を設定し、互いを支え合う環境を作るようにした。教師は見守り、必要な場面で支援に入った。



2 授業の様子（実践全体より授業抽出）

実践全体より、地域での学習の前後①～④の授業を抽出し、以下に学習内容を示す。

授業日	学習内容	
対象① 7月4日 	校外学習1の事前学習	【前半】 ・学級全体で目的の共有と内容の確認を行った。 ・市役所に行き、自分たちが行っている環境美化活動について報告をするための準備をした。 ・報告の他に、コキアの鉢を置いてもらうための交渉や市で取り組んでいる課題を聞くなど、情報を収集するためにインタビュー内容を話し合った。 【後半】 役割分担をし、準備を進めた。 （1）活動報告グループ （2）インタビューグループ （3）交渉依頼グループ ※対象生徒が担当
対象② 7月18日 	校外学習1の事後学習	・市役所の職員と関わり、得た情報をワークシートのメモを確認しながら振り返った。 ・交渉結果を確認した。 →「鉢を置くことは可能だが、何個置くのかについては学校から返答がほしい」という返答をもらった。 ・鉢の個数を全員で話し合い、1か所につき鉢2つに決定した。 ・市役所に電話し、「市役所」と「図書館」の2か所に鉢を2つずつ置かせていただけるか対象生徒が電話交渉を行った。 ・感じたことを振り返りシートに記入した。
対象③ 10月9日 	校外学習2の事前学習	【前半】 ・学級全体で目的の共有と内容の確認を行った。 ・市役所と図書館のコキアが枯れてしまったことを知らせる館長さんからのメールを全員で確認した。 ・コキアの生育に関する相談会を開催するのはいかがでしょうか、と話し合いで検討した。 ⇒11月11日「相談会」に向けての準備と、校外学習では市役所と図書館に行き、これまでの活動の報告とお礼を伝える流れに決まった。 【後半】 役割分担をし、準備を進めた。 ⇒（1）活動報告グループ （2）インタビューグループ （3）資料作成グループ ※対象生徒が担当
対象④ 11月13日 	校外学習2の事後学習	・市役所と図書館を訪問した際に、学んだことや自分の役割などを振り返った。 ・次年度の活動について自分の考えを整理し、ワークシートにまとめた。 ・市役所や図書館の職員と関わり、得た情報を振り返り分かったことを整理した。 ・感じたことを振り返りシートに記入した。

IV 結果

1 テキストマイニング

(1) 抽出語

分析対象授業における対象生徒の発言内容を文字化し、KH Coder を活用して語を抽出した。全ての抽出語を実践グループメンバーで確認し、次に、a「対象生徒がエージェンシーを発揮した姿」に関連する語、b「地域資源」に関連する語を選定して、その回数を整理した（表1、2）。また、a、bそれぞれをカテゴリとし（表3）、数値の推移をグラフに整理した（図1）。

表1 a「対象生徒のエージェンシー発揮した姿」に関連する語の出現回数（各授業日別）

語句	対象① 7月4日	対象② 7月18日	対象③ 10月9日	対象④ 11月13日
できる	7	4	5	0
やる	7	0	17	5
がんばる	0	1	8	2
育てる	1	0	8	0
行こう	1	0	4	0
考える	1	1	1	0
作る	1	0	4	2
進める	0	2	0	1
送る	0	3	9	0
伝える	0	0	8	0
行く	2	3	5	0
覚える	0	1	1	2
話し合う	0	2	0	0
思いつく	0	0	1	1
取組	0	6	0	0
協力	0	0	3	0
合計	20	23	74	13

エージェンシー発揮に関連する語の選定においては、「できる」、「やる」、「がんばる」、「育てる」など、対象生徒の前向きかつ主体的な行動・意思を示すと考えられる語を対象とした。

7月4日および7月18日の授業においては、これらの語がそれぞれ20回、23回使用され、対象生徒は一定の頻度で発言していた。ところが、10月9日には「やる」、「育てる」を中心に語句の使用が急増し、合計74回に達した。「がんばる」、「育てる」、「伝える」という語句が増えたことについては、生徒が自分たちの活動についての認識や取り組み方の態度について変化があったと考えられた。最終日の11月13日においては、語句全体の使用回数は13回と低下していた。これまでの活動を振り返り用紙に記入する学習内容を主に授業を進めたため、発言する場面が少ない活動だったことが要因であると考えられた。

表2 b「地域資源」に関する語の出現回数（各授業日別）

語句	対象① 7月4日	対象② 7月18日	対象③ 10月9日	対象④ 11月13日
市役所	7	0	1	1
環境課	7	0	0	0
センター	5	0	0	0
涼み処	11	1	0	0
コキア	8	9	12	3
学校	0	4	0	1
環境	0	4	0	0
大学	0	4	1	0
特別支援学校	0	4	0	0
カーボンシティ	0	6	0	0
図書館	4	0	3	4
新聞社名	0	0	0	7
合計	42	32	17	16

地域資源に関する語句は、「市役所」、「環境課」、「センター」、「涼み処」、「コキア」など、具体的な施設やプロジェクトに関連する語を選定した。

表3から7月4日および7月18日の授業では、これらの語句が合計42回および32回確認された。市役所の職員へのインタビューや環境美化活動に関する情報収集が中心の学習内容であったことから、地域資源のことにについて学級で共通理解を図っていたことが要因として考えられた。一方で、10月9日は17回と、後半にいくにつれ、地域資源に関する語句は減少した。これは、表1の結果から分かるように、対象生徒が「地域のためにできることは何か」という課題へ積極的に取り組んでいる様子が顕著になり、生徒個人の主体的表現へと移行したためであると考えられる。11月13日については、16回確認された。表1の分析から、振り返りシートの記入が主な活動であったことが要因として考えられた。表2の「涼み処」は9月で閉鎖となったため発言数は後半期0回になり、「新聞社名」は校外学習2で初めて触れた語句だったため、対象④でのみ発言された。

表3 カテゴリ全体の変化（各授業日ごとの合計出現回数）

カテゴリ	対象① 7月4日	対象② 7月18日	対象③ 10月9日	対象④ 11月13日
a エージェンシー関連	20	23	74	13
b 地域資源関連	42	32	17	16

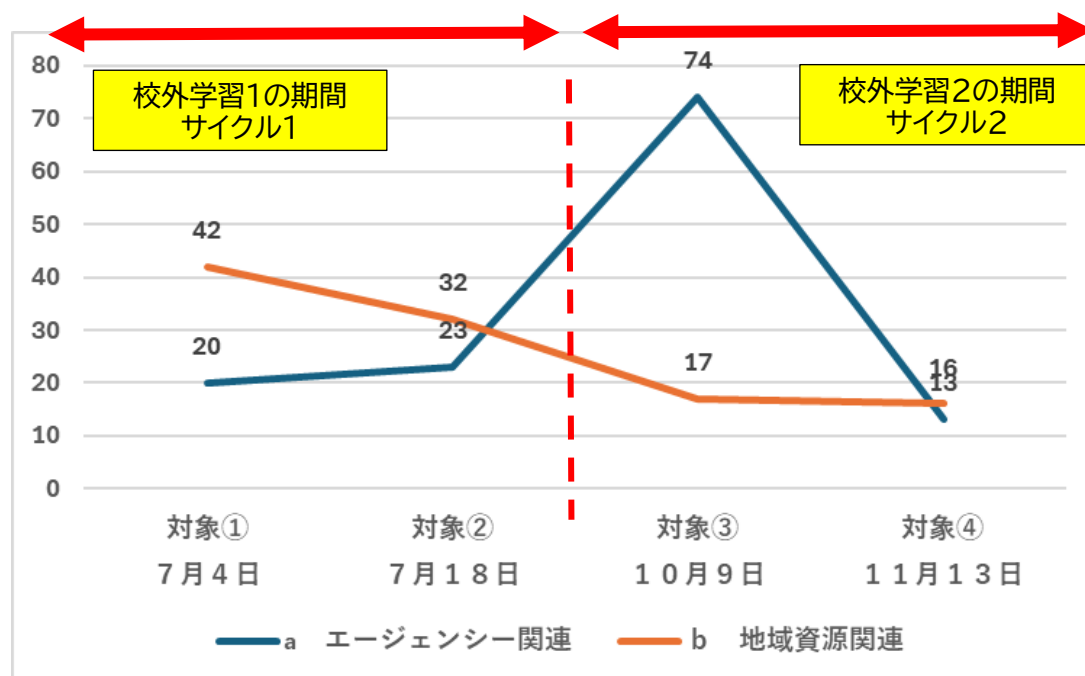


図1 エージェンシーに関連する語句と地域資源に関連する語句の推移

表3に示す通り、授業初期（校外学習1の前後：対象①②）では、地域資源に関する発言がエージェンシー発揮に関連する語よりも多く発言されていた。これは、初期段階において生徒が地域の具体的な知識や情報の共有を重視していたことが影響したものと考えられた。しかし、10月9日にはエージェンシー発揮に関連する語が大きく増加した。これは、授業が教師主導から生徒主体へと転換されていったことが要因ではないかと推察された。最終日である11月13日には、両カテゴリとともに発言回数が低下しており、特にエージェンシー発揮に関連する語が著しく減少した。この日の授業は、10月9日の校外学習の振り返りをワークシートで行っていたため、友達との対話場面が少なかったことが影響していると考えられた。

(2) 共起ネットワーク図

分析対象授業での発話内容からの抽出語を用い、共起ネットワーク図を作成した。共起ネットワーク図とは、テキスト内で特定の単語がどのように共に出現するかを視覚的に示した図であり、共起関係を直感的に確認できるものである。

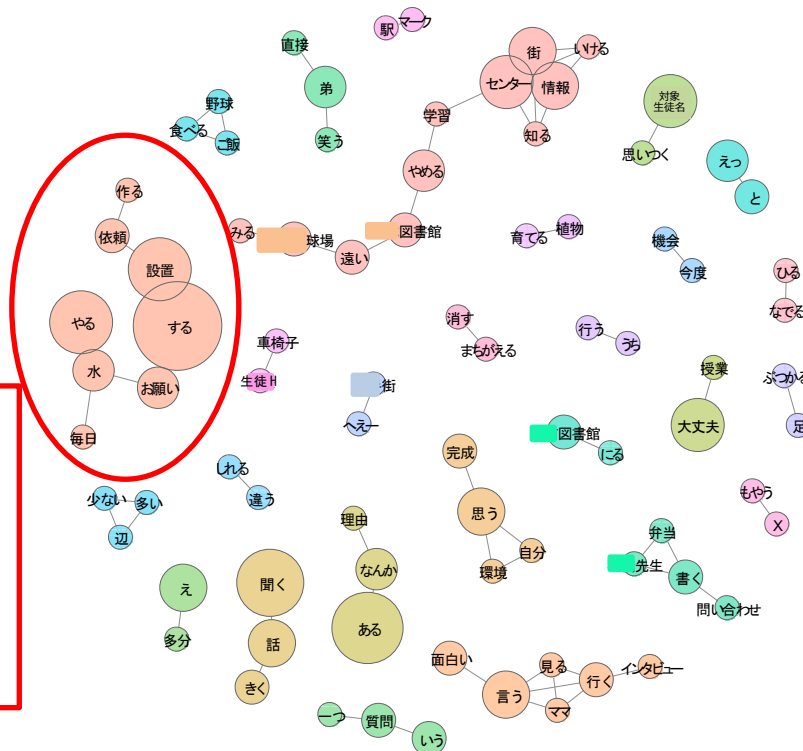
エージェンシーに関連する語句で、前述した表1で最も回数が増えた「やる」、「がんばる」、「育てる」、「伝える」や、地域資源に関する語句の「コキア」に共起する内容を見ていく。

対象① 7月4日（木）校外学習1の事前学習

※1 「やる」

「環境課では、主に何をやっているのか」
「水やりをよろしくお願いします」

環境課の職員に伝える文言を
考えているときに、顕著に
発言されていた。



対象② 7月18日（木）校外学習1事後学習

※1 「地域資源の語句」

「CO2 を減らすゼロカーボン
シティに関する取り組み
と、自然エネルギーの取
組みがあったことを知りま
した」など発言していた。

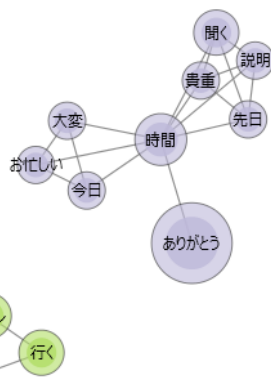
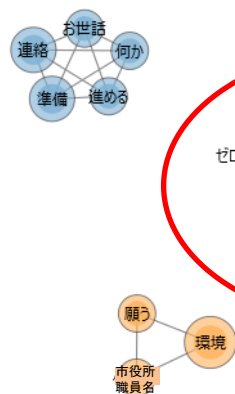
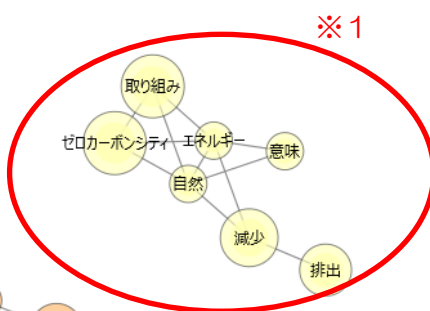
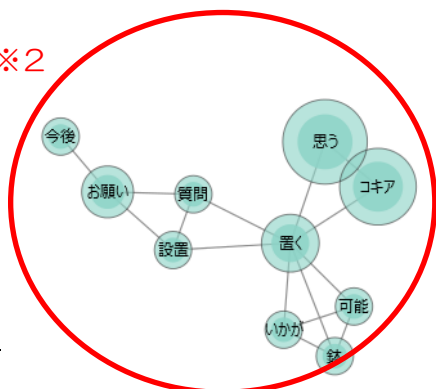
環境課の職員から伺った情報
を整理しているときに、顕著
に発言していた。

※2 「コキア」

「1か所につき2つずつコキ
アの鉢を置かせていただ
きたいと思っています」
など発言していた。

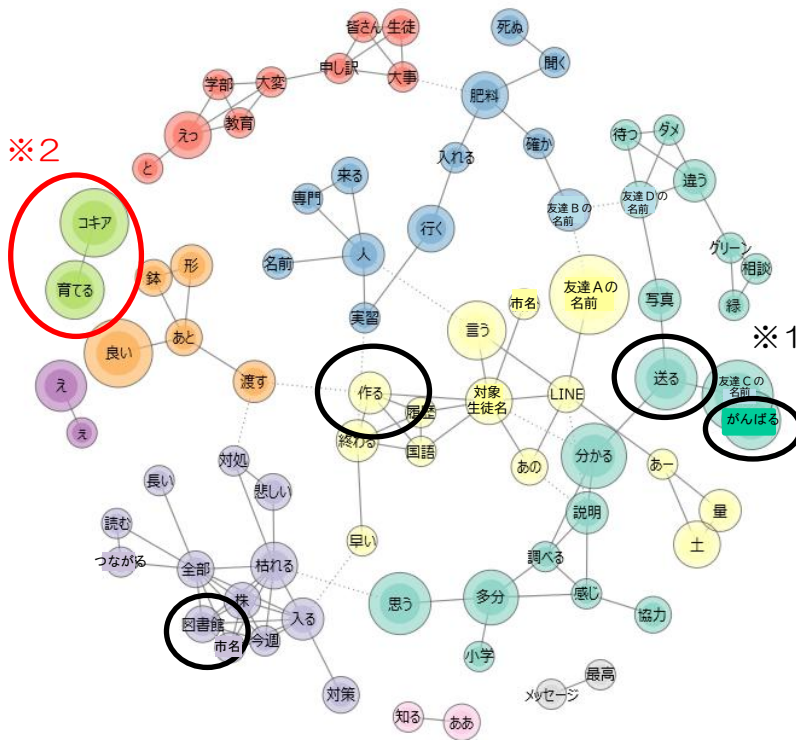
環境課の職員と電話でやり取
りしているときに発言してい
た。

※2



対象③ 10月9日（水）校外学習2の事前学習

※黒と赤の区別は、共起ネットワーク図の楕円の色と対応している。



※1 「エージェンシー関連の語句」
「図書館」

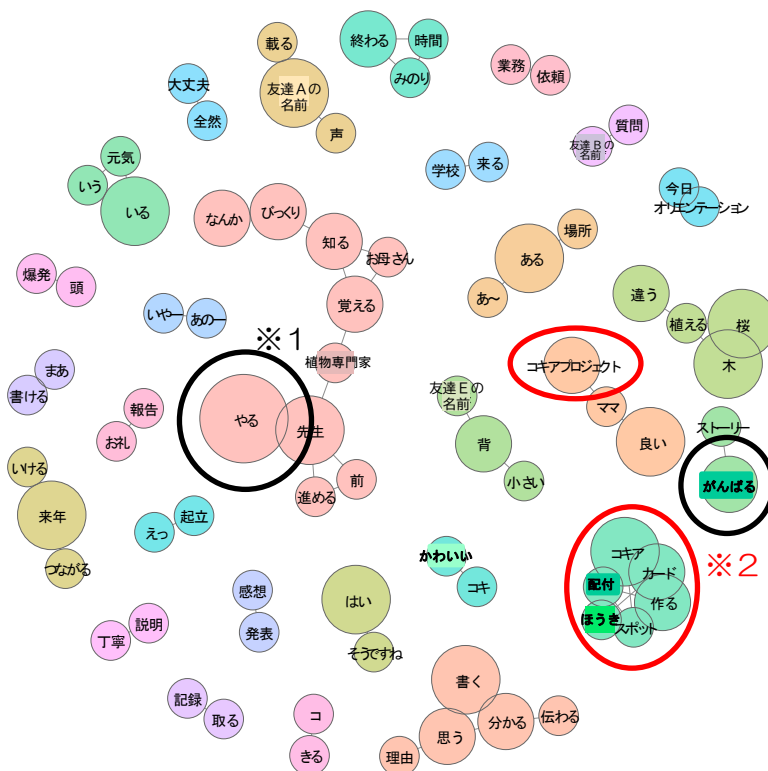
「調べたことを送ればいい」
「図書館の皆さんにがんばって伝えよう」
「育て方のアドバイスとかを作って渡せばいいのかな」

活動方法について提案するときの発言が多く出ていた。

※2 「コキア」、「育てる」、「やる」
「こうやって育てればいいですよ、みたいなのがあればいい」
「コキアを育てるために水をやる時間帯は、いつがいいかあるのか」
「水やりとか土の量や肥料とか、どの頻度でやればいいのか」という発言が多く出ていた。

地域への次の課題についてや、相談会で質問する内容について提案するときの発言が顕著に出ていた。

対象④ 11月13日（水）



※1 「やる」

「先生がやるっていう前に自分たちが始める、進める」
「私はコキアのストーリーを作るのをがんばった」
「地域の方に伝わって」と発言していた。

振り返りシートに記入するときに発言されていた。

※2 「コキア」「作る」

「コキアプロジェクトを良いって言うていた」
「コキアカードを作って配付したい」
「コキアのほうきスポットを作る」など発言していた。

振り返りシートに記入するときに、顕著に発言されていた。

初期の段階（授業①②）については、地域の情報を知りたいという気持ちや、地域へ協力を依頼する目的を達成するための発言が確認された。

- ・「なぜ環境課ができたのかな」、「主にどういうことをやっているんだろう」
- ・「市役所とか図書館に、コキアの鉢を置かせてもらうことはできるのかな」
- ・「CO2を減らすゼロカーボンシティに関する取り組みと、自然エネルギーの取り組みがあったことを知りました」

授業後期（授業③④）に入ると、地域のためにできることを考え、友達に提案する発言が顕著に出ていることが確認された。

- ・「専門家の人に聞いたらいいよ。あの人たち、グリーン相談員の人たち」
- ・「（コキアが枯れたことを知って）育てるアドバイスとか、こうやればいいですよ、というものを何か作たらいいと思う」
- ・「水やりとか、どういう頻度でやればいいのかな」、「鉢の形とか、やる土の量はどのくらいかって聞けばいいと思う」
- ・「（校外学習1のときのように）また市役所と図書館に行って伝えようよ」

共起ネットワークの分析結果から、図1で示したように、地域で学ぶ機会の初回と2回目で、対象生徒の発言内容に大きな変化が見られた。このことから、初期段階は課題を達成するための知識を増やすことが必要であり、地域と関わっていくことについての活動の見通しがもてたことで、後半では「自分たちは何ができるのだろう」という視点に立ったエージェンシーの発揮に関わる発言が増えたと考える。

さらに、地域の方と関わる機会が増えるごとに、地域に関する単語「新聞社名」を自発的に話している様子が見られた。また、「（コキアが枯れて）悲しい」、「（プロジェクトが）楽しい」など、感情の表現が出現し始めた。これにより、活動をする目的が「地域の方たちのために」という視点へと拡大していることが推察された。

校外学習2に向けて「みんなの協力がないとできない」、「（地域の方に）がんばって伝えよう」と友達に掛ける言葉についても変化があった。仲間と共に活動に取り組んでいるという実感と意識の変容があったと考える。

2 振り返りシートへの記載内容

振り返りシートを取り入れた授業初回（8月22日）から最終日（11月13日）まで、数値の変容を見たところ、特に数値の低かった4、5の質問に関しては数値が高くなっていることが確認された。

項目	8/22	8/26	8/28	9/2	9/9	10/9	11/13
1 自分が今日の授業で、友達の役に立てたと感じますか？	0	10	10	10	0	10	7
2 あなたは学校周辺の地域や市のことが好きですか？	10	10	10	10	10	10	10
3 自分もっている力を発揮できたと思いましたか？	5	10	10	10	0	10	7
4 自分がこのプロジェクトに関わり、楽しいと感じましたか？	0	2	3	3	3	10	10
5 自分たちのプロジェクトは市や学校周辺の地域にどのくらい役に立っていると思いますか？	3	3	7	5	7	10	10
6 自分たちがやっているプロジェクトは市をよくすると思いましたか？	7	5	10	10	10	9	10

振り返りシートの数値の変容から、項目4について、対象生徒の学習に対する参加意欲が向上したことが明らかになった。これは、授業が進行するにつれて、実際に地域の方と関わりながら課題が解決される過程を経験したことに加えて、地域の方からの評価により成果が明確になったことで、楽しさを実感できたと考えられる。

そして項目5の変容については、自分たちの活動が社会貢献につながったことを、対象生徒が実感していることを示している。校外学習1については振り返りシートを実施していなかった期間であるため、数値での変容は見取ることができなかった。しかし、校外学習2に向けた事前学習(10/9)は、コキアが枯れてしまうという事実を知ったにも関わらず、数値は向上していることが確認できた。この結果から、当初は取り組む意義を見出せなかった対象生徒が、コキアの鉢を届けるために地域に出て学ぶ経験を経て、地域への貢献を強く実感するようになったと考えられる。

さらに、自由記述欄については、自分たちができるようになったことについて「植物をもっと大事にしようと思った」ということや、来年度チャレンジしてみたいことについて意見を記入していた。

校外学習1を終えて 10月13日

4月～10月まで
高2・コキアプロジェクトの振り返り

名前

①一番思い出に残っている活動は何ですか？
・50FTKを作った活動
・市役所での宣伝活動

②どの活動で、自分はどんな役割をしましたか？
・市役所でコキアを置いていいかどうか許可をとった。
・市役所に電話をした。

③プロジェクトを通して、できるようになったことは何ですか？
・地域の方と話せるようになった。
・植物をもっと大事にしようと思えるようになった。
・植物に興味を持てるようになった。
・育て方を覚えた。
・協力してやるようになった。

④プロジェクトを通して、今の自分に足りない力や、足りないものは、何だと思いましたか？
・今のところ無い。

⑤今年、コキアプロジェクトを続けてきて、これからどんなことをしていきたいですか？
 また、チャレンジしたいことはありますか？
・コキアのキャラクターを作りたい。
・コキアの成長記録のパネルを作りたい。
・高2のコキアプロジェクトの始まりからこれからの本音を表現したい。

⇒その理由は何ですか？
・小学部や中学部はもちろん、保護者や地域の方など色々な方に楽しんでもらいたいから。
・小学部や中学部が受け付けてくれるかもしれないから。

- ・アイデア=やってみたいことを記入している。(自発的な表現)
- ・もっと誰かに知ってほしいという気持ちを表現している。

校外学習2を終えて 11月13日

そうだんかい しやくしょ としよかん ふ かえ
コキア相談会・市役所・図書館 振り返りシート

氏名

① FTKコキア相談会で、あなたはどんな役割でしたか？
 (準備などもふくむ)
・コキアぼうろのプロフィールとストーリーを作る。

② みんなで準備をしたり、質問をしたり、相談員の方と関わったりして、感じたことを自由に書きましょう。
・自分が自分の事を知っていてびっくりした。
・コキアの事を細かく丁寧に教えてもらえて分かりやすかった。

③ その他、自分で考えたことや、友達と書いてね。
・コキアをもっと色々な人達に知ってもらいたいと思った。
またコキアの成長記録ポスターを作りたいと思った。

④ 来年、3年生になったら、コキアプロジェクトをやりたいと思いますか？
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

そう思った理由を書いてね！
・楽しいから。

地域の方からの支えに気付く。

プロジェクトに対する価値や期待を感じている。

高2 コキアプロジェクトの振り返りシート

12月12日 名前 []

今日、みんなで地域の皆さんのところへ鉢を回収しに行って、どんなことを思いましたか？ また、何か感じたことはありますか？ 下にご書きましょう。

・6ヶ所全ての場所のみなさんがやさしく受け入れて、来年もコキアを置いていいと言って下さったのでこのプロジェクトをやった良かったなと思いました。

・あまり育たなかったコキアもありましたが大きくなったコキアもありみなさん大切に育ててくれていたのが分かりました。

・「コキアを育てるのが楽しかった！」と言ってくれてうれしかったです。

・みんなで協力して回収してきたコキアを無事に持ち帰ってこれた良かったです。

・来年もコキアプロジェクトをやりたいと思いました。

・これからもコキアの事を色々な人に知ってもらいたいと思いました。

・[]さんの分までちゃんとみなでお礼を言えたので良かったです。

・地域の皆さんにコキアが受け入れられ、大切に管理してもらったこと、そして自分たちの活動を喜んでもらったことに対し、感謝と喜びを感じている。

・最後までやり切り、責任を果たせたことや、友達とともに目的を果たせたことに対し達成感を感じている。

・来年に向けての展望につながっている。

【お礼として
配付したカード】

コキアを置いて
いただきありがとうございました。

令和6年12月
大学教育学部附属特別
支援学校
高2より



地域の方から評価される経験を通して、「コキアの事をいろいろな人に知ってほしい」と表現するなど、内向的な視点が他者へ向けた外交的な視点に変化していることが確認された。最後まで、自分たちの活動に責任をもって行う経験をして、来年へつながる大きな達成感と学習に対する意欲が芽生えたのではないかと推察された。

また、友達の実在意義を感じており、「みんなで」という表現を使っていることから、1人ではなく他者と協力して活動を成し遂げることができたことを理解していると考えられる。単元スタート時に比べ、気持ちに変化が見られた。

自分たちの活動について「コキアプロジェクトが楽しい」、「楽しいかも」、「なんか楽しい」と発言しながら振り返りシートに記入していた。これは、地域と関わるサイクルを2回経験したことで、対象生徒の気持ちが前向きに変化した結果と考えられた。

3 対象生徒のエージェンシー発揮に関連するエピソード記録

地域の役に立つために、自分にできることを考え、地域の方からの評価を聞いて役立てたことを自覚し、主体的に役割に取り組んだり、自分の意見を提案したりする」姿に関連するエピソードを記録したものを以下に示す。

(1) 電話での交渉に挑戦

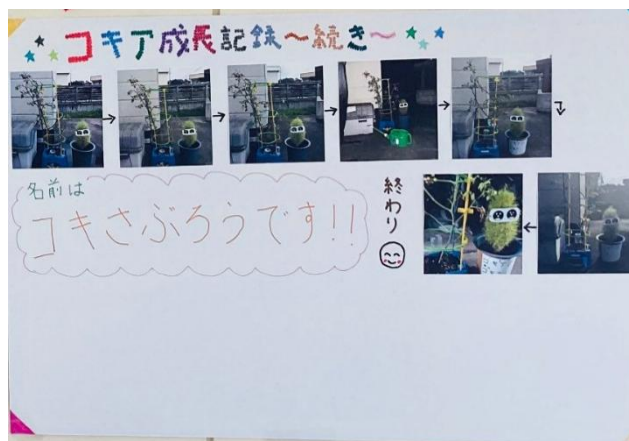
校外学習1で、コキアの鉢を市役所の涼み処に設置できるか依頼した際に、「設置するにあたり、鉢を1か所につき何個置くかについて検討してほしい」という話で終わったため、その返答をするために市役所の環境課へ電話を掛けることになった。電話は緊張して苦手だと普段話している対象生徒が、その役割に自ら立候補した（7月18日）。

(2) 成長記録の作成

校外学習1を受け、植物やコキアが環境美化に役立つことを知った。夏休み中、コキアの鉢を1つ家庭に持ち帰り、大切に管理をするという宿題を出したところ、「コキア成長記録」を自主的に作成した。

対象生徒に理由を聞くと、「小学校時代に、植物の観察日記を付けていたことを思い出した。毎日コキアの様子が分かるように、自分で観察記録を付けたいと思った。写真の印刷は保護者に協力をお願いして、目や（鉢の側面に付けた）看板は自分で考えて付けた。みんなに分かるように、名前を付けた」と話している。

⇒これまでの経験から、コキアに目などを飾ると親しみが増すことを思い出し、自分ができることを考え授業以外の場面でも実践していた（夏休み中）。



(3) コキアの装飾

学校周辺の地域6か所に、コキアの鉢を届ける際に「コキアに付ける目とほっぺを一緒に配付するのはどうか」とリーダーの生徒に提案し、友達と協力して製作し地域の方に渡すことができた。昨年度は配付していなかったため、新たな取り組みとなった（9月4日）。

実際に渡した場面では、地域の方から『うれしい。かわいいですね』と喜ばれたり、目の前でさっそく取り付ける様子を目の当たりにしたりして、うれしいと話していた（9月12日）。



目

ほっぺ

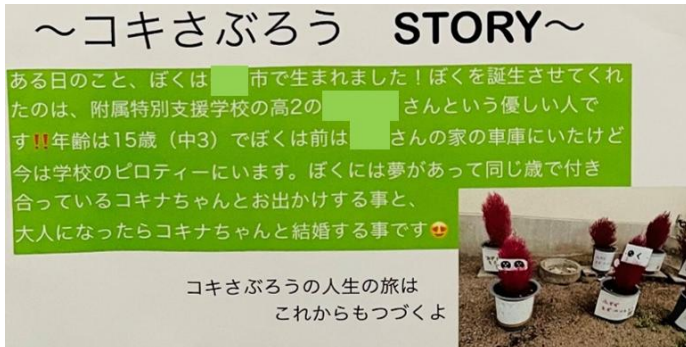
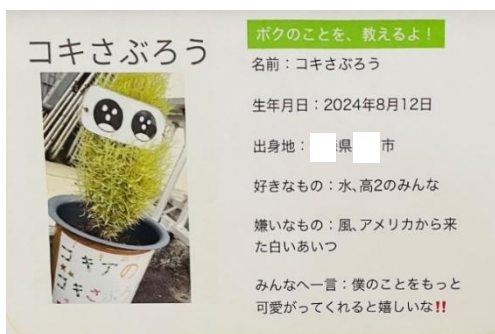
コキアの鉢6セット分作り、鉢と一緒に配付

(4) 絵本作り

夏休み明けに「絵本を作りたい」と発言していたことを思い出し、校外学習2に向けた準備をする授業ではタブレット端末のアプリを使ってオリジナルの話を作成した（11月8日）。

コキアの栽培を植物の専門家に聞く相談会では、当日の資料と併せて専門家の方へ配付し、かわいいと称賛された（11月11日）。また、校外学習2では市役所と図書館の職員に配付し、自分のアイデアを評価してもらえる経験ができた。

自分の学校の掲示板に貼り、小学部や中学部の児童生徒にアピールした（11月末）。



(5) 顔はめパネル

本校の創立50周年記念式典が開催される日に、自分の家族を含め多くの保護者が来校することを知り、自作のキャラクターを使ったアイテムを作り、盛り上げたいと考えた。家庭でアイデアを考え、姉弟からヒントを得て「顔はめパネルを作りたいです」と提案した。作り方が分からないため自ら教師に相談し、意見を伝えた。休み時間に教師と製作し、式典で披露することができた(12月7日)。



(6) 共同エージェンシーの存在

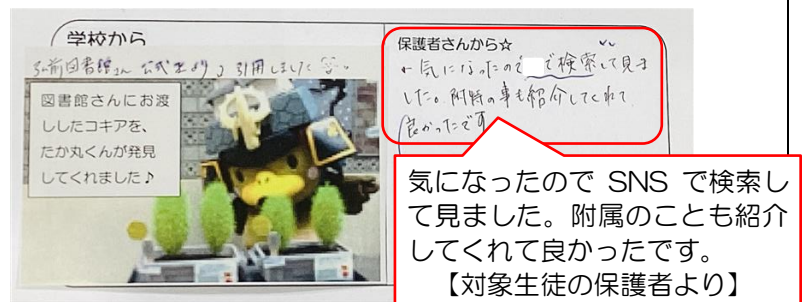
対象生徒が活動に取り組む上で、エージェンシーの発揮した姿である「(1) 自らの提案によって地域に役立つ活動に取り組み、友達とともに行動することができる」「(2) 地域の方からの評価を受け、改善点やより良くするための提案を行う」という本実践の目標達成のために、作用していたと思われるエピソードを記載する。

- ① 友達に自分のアイデアが受け入れられ、地域にコキアの鉢を届けるための準備を一緒に行う経験をした。

鉢やコキアの装飾作りの様子⇒



- ② 生徒たちの活動が図書館のSNSに掲載されたことを連絡帳に記載すると、家庭でも投稿をチェックしてくれ、学校の活動を応援するようになった。



- ③ 地域の協力

教材で地域紙を扱ったり、図書館の館長さんとやり取りしたメッセージを授業で提示したりする工夫が、「先生たちも含め、みんなでプロジェクトを成功させるために行動している」という実感につながったと考える。校外学習1で関わった市役所や図書館の職員が、写真等でコキアの現状を伝えてくださった。SNSで紹介されたり、市の広告にも掲載されたりしたことで、地域の協力が生徒たちに伝わり、生徒にとって「自分たちの活動が地域の方に評価され、認められた」という認識を与えることになった。このことにより、生徒たちの動機付けが高まった可能性が考えられた。

【市役所で発行している広報や館内の写真】



【広告で宣伝、図書館のSNSの投稿】



（７）評価について

対象生徒の授業の様子を振り返り、実践者（Ｔ１）と実践グループメンバー（Ｔ２）の評価を下記にまとめる。

観点	対象生徒の目標	評価
知識・技能	・自分たちが取り組んでいるコキアプロジェクトが市の環境美化活動につながっていることが分かる。	・市の環境課で植物を守る取り組みが、自分たちのコキアプロジェクトとつながっていることを知ることができた。また、二酸化炭素を減らすという市の目標達成のために、コキアが役立つことが分かった。
思考力・判断力・表現力	・コキアプロジェクトについて、自分ができることやアイデアを考え、発表したり、伝えたりする。	・自作のキャラクターを作ったり、地域の方のために飾りを製作したりするなど、自分に取り組めることを教師や友達に相談や提案をしたり、振り返りシートに伝えたりすることができた。
学びに向かう力、人間性等	・自分の役割に進んで取り組み、仲間と協力して活動を進める。	・友達と協力して、校外学習で話す原稿や資料の準備に取り組むことができた。また、自発的に友達に励ましの言葉を掛けたり、電話を掛ける役に立候補したりするなど、前向きな姿勢で活動に取り組むことができた。

まず、観点の１つ目である「知識・技能」について、校外学習１において市役所の職員に地域の環境美化に関する課題をインタビューする学習を行った。その結果、対象生徒は「CO2を減らすために自然エネルギーの取組があることを知りました」と発言しており、振り返りシートにも「自分たちが育てているコキアが自然や市にとって役立っている」と記入していた。これらの点から、自分たちの環境に関することを理解できており、観点１は達成されたと評価できる。

次に、「思考力・判断力・表現力」については、テキスト分析の結果から、地域での学習を重ねるごとに対象生徒の主体的な行動を示す発言が増えていることが明らかになった。例えば、市役所や図書館の職員との関わりを通じて地域の課題を知り、「～を作って図書館に渡せばいい」、「がんばって～しよう」と友達に提案するなど、具体的な行動を示す発言が見られた。また、結果で示した図４によると、地域で学ぶサイクル２の段階ではエージェンシーを発揮した姿を表す語句の数値が上昇し、発言数も増加している。さらに、自作のキャラクターを通じて主体的に行動したことが友達から称賛されたエピソードもあり、これらの点から達成されたと判断できる。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、校外学習１・２を経て、単元の最後には地域からコキアの鉢を回収するという活動を生徒たち自身の手で成し遂げることができた。対象生徒は、最終日（12/12）の振り返りシートに「みんなで協力して回収してきたコキアを無事に持って帰って来られて良かった」と記入している。また、テキスト分析で「（校外学習１のときのように）また市役所と図書館に行って伝えようよ」という発言が出ていることから、友達と共に自分たちができることを考え、最後まで果たそうとする気持ちが読み取れる。また、苦手な電話交渉の役割に立候補して臨んだことや、自主的にコキアの成長記録を作るなどのエピソードの記録も踏まえると、達成されたと評価できる。

V 考察と課題

１ 対象生徒のエージェンシー発揮につながった指導の在り方

本実践の目的は、生徒の主体性や前向きに挑戦しようとする意欲を引き出す指導の在り方を検討するものである。対象生徒がエージェンシーを発揮した具体的な姿として、「（１）自らの提案によって地域に役立つ活動に取り組み、友達とともに行動することができている」状態であり、さらに「（２）地域の方からの評価を受け、改善点やより良くするための提案を行う」と設定し授業を実践してきた結果、総合的な探究の時間における評価、テキストマイニング、振り返りシートやエピソード記録の内容から、エージェンシーの発揮につながっていたと考える。

次項から、エージェンシーが発揮された要因について考察する。

（１）地域で学ぶサイクルの重要性

本実践では、図４「エージェンシーに関連する語句と地域資源に関連する語句の推移」に示されたように、一つの大きな学習サイクル（校外学習１・２）を通じて、生徒の成長を促した。

サイクル１では、生徒は地域資源や環境美化に関する知識を得るとともに、地域の方から直接話を聞き、自分たちの活動を伝える役割を経験した。この段階は、学習の基盤を築く重要な過程であり、見通しを持つことで生徒の自信につながり、次の活動への意欲を高める結果となった。また、初期の段階では、地域と生徒をつなぐための教師の介入が必要であった。

サイクル２では、より生徒主体の学習へと発展させるため、サイクル１と同様に地域での実践活動を計画したことにより、生徒たちは自分たちで準備や役割分担を進める姿勢へと変化した。

このように、地域で学ぶサイクルを継続することは、生徒の主体的な学びを促進する上で意義深いと言える。実際に、生徒からは「（コキアプロジェクトが）楽しい」、「（来年度も）またやりたい」といった内発的動機への変容が見られた。この変化は、地域との関わりを２回繰り返したことによる影響が大きいと考えられる。さらに、サイクルの途中で、９月と１２月の２回にわたり学校周辺の地域の方々と関わり、最終的にお礼を伝える機会を設定したことが、翌年へ向けての生徒の意欲向上につながったといえる。

また、生徒主体の学びを実現するためには、最初のサイクルは教師の積極的な介入が不可欠である。初期の段階で学習の土台となる知識を吸収し、地域と関わる技能を高めることで、次のサイクルで更に深い学びへとつなげることが可能になると思われるからである。今後も地域との関係性を築きながら、学習者の主体性を引き出す指導が求められる。

（２）地域との協働による効果

対象生徒が主体的な提案をし、実際に行動できた要因の１つに「友達の協力」が大きい影響を及ぼしたと考えられる。結果で示したエピソードから、「コキアに付けるほっぺと目を作りたい」というアイデアが友達に受け入れられ、みんなで準備を進められたことが対象生徒の自信につながり、さらに次のアイデアにつながるきっかけとなった。単元の最後の振り返りシートに「（友達と）コキアの鉢を回収できてよかった」、「ちゃんとみんなでお礼が言えた」と記入していたことから、友達と一緒にプロジェクトを進めてきたという意識をもって臨んでいたことや、自分のアイデアを最後まで進めて来られたことに対する喜びが読み取れる。

また、保護者のサポートも大きな影響を与えた。コキアがメディアに紹介されたことを知った保護者が「良い活動をしているね」とフィードバックしたことで、対象生徒はそのことを友達に共有した。結果として、学級全体で生徒の主体性が発揮された姿が強く見られるようになった。

さらに、地域の方々の協力も生徒の学習意欲の向上に大きく寄与した。実践期間中、地域の方々から「これからもつながっていきましょう」といった言葉を掛けてもらい、温かく受け入れられた経験が、生徒の自信とやりがいにつながった。振り返りシートには「地域の皆さんが優しく受け入れてくれて」との記述もあり、直接的な関わりが生徒の意欲向上に直結したことがうかがえる。

加えて、９月上旬には、前年から交流のある地域の方々にコキアの鉢を渡した際に、地域の方々から「待っていたよ」、「今年のコキアも元気だね」と言葉を掛けられたことが、生徒の活動意欲を更に高めた。また、今年度は新たに教育学部にも鉢を設置し、活動の広がりを実感する機会となった。

このように、「地域の中で暮らしている実感」をもつことや、活動が評価される達成感を得ることで、生徒は更に地域に貢献しようとする意欲を高めることができたと考えられる。

また、サイクルを繰り返すことで、生徒が活動の見通しをもちやすくなり、全ての生徒が関われるよう役割や活動を調整することで、共同エージェンシーが発揮される環境を整えることができた。これは、本実践の大きな成果の１つである。

（３）予期せぬアクシデントとその対応

当初、校外学習２では成長したコキアの鉢を使い、地域との交流を更に深める予定であった。しかし、コキアが枯れるという予期せぬアクシデントが発生し、生徒も教師も対応を迫られた。

この状況の中で、生徒たちは「地域の方々の思いを受け取り、自分たちにできることは何か」と考え、自発的に行動しようとする姿勢を見せた。このような行動が生まれた背景には、サイクル１で地域の方々と触れ合った経験があったことが大きい。生徒たちは、「このままでは終われない」「何かできることをしよう」という気持ちを抱き、行動に移した。これは、地域とのつながりを実感し、それを自分事として捉えるようになった結果であると考えられる。

(4) 教師のフィードバックの重要性

地域と関わる学習サイクルを継続することで、生徒たちは更に学びを深め、「自分も地域の一員である」という意識をもつようになる。そのためには、教師の適切なフィードバックが不可欠である。結果に示した共同エージェンシー「③ 地域の協力」のところでメディア掲載の様子を挙げたが、地域の方が学習活動を評価していることを生徒が気付けるように、教師自身も日常生活の中でアンテナを張って生徒に提示できるようにした。

具体的には、授業で支援していく際に以下のことを意識した。

- ・地域との関わりを実感できるよう、地域の方からの言葉を伝えること
- ・生徒が「また地域の方と関わりたい」と思える学習展開をつくること
- ・サイクルを繰り返すことで、生徒の意欲を高め、最後までやり遂げる責任感を育むこと

全ての生徒に伝えるために、地域の方からの言葉は画像や文字にして示したり、実際に関わっている様子を振り返るときは映像を活用したりして、記憶に残る形で伝えた。また、生徒の受け止め方を振り返りシートや観察を通じて見取り、適切な支援を行ってきたことが効果的であった。今後も、地域と関わる学習のサイクルを継続し、生徒たちの主体的な学びを支えていくことが重要であると考えている。

最後に、次年度へ向けた課題として、以下の3つに整理する。

- 1 生徒のアイデアを教師が生かし、共に行動することで生徒の主体的な希望に基づいた活動を展開してきたが、予定している期間内に段階的な授業計画を立てて実践していくためには、教師側の高いファシリテーションスキルが求められる。生徒同士で話し合う場面を取り入れることも必要ではあるが、課題に対し多様な考え方を共有しながら最善の答えを導き出すには、初期の段階では教師が介入しながら生徒の成長に合わせた展開をしていく必要がある。
- 2 振り返りをした後に、そこから更に改善点を生徒同士で共有する働き掛けが必要であった。友達の意見を参考にすることで、課題や改善方法に気付くことができ、学びのサイクルを大きく発展させることができると思われる。
- 3 今回の研究では総合的な探究の時間における授業を行ったが、この単元の特徴を生かすとすれば、市や地域の歴史や環境問題などの昨今の現状について、事前学習を行った後に市や学校周辺の地域の方たちとの交流の機会を設けることで、生徒はより課題に対して自分の考えをもつことができ、地域貢献の意識を一層高めることができると思われた。

VI 参考・引用文献

- ・OECD (2019)「OECD ラーニング・コンパス (学びの羅針盤) 2030」, <https://www.oecd.org/en/about/projects/future-of-education-and-skills-2030.html#resources>, (2025年3月27日閲覧)。
- ・OECD (2019)「2030年に向けた生徒エージェンシー」, <https://www.oecd.org/en/about/projects/future-of-education-and-skills-2030.html#resources>, (2025年3月27日閲覧)。
- ・樋口耕一・中村康則・周景龍 (2022) .『動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析』.ナカニシヤ出版.
- ・文部科学省(2018). 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部)。